琉球・沖縄 年中行事 ?なんでも! Q&A

「向焼香」について

●Answer
沖縄市・コザ山 球陽寺 前住職
帰依 龍照（きえ りゅうしょう）

Q 兄弟間のトラブルがあり、長男である兄が喪主・施主を務める父親の三十三回忌の法事に行きたくても行けず、とても心苦しいです。沖縄のやり方で、解決策があれば教えてください。ワラをもつかむ思いで、相談しました。

（読谷村・Kさん）

A Kさん、よく思いきって相談してくださいました。できる限りアドバイスさせていただきたいと思います。

沖縄では三十三回忌は最後の法事（終焼香＝ウワイスーコー）であり、とても大切な節目なので、兄弟、仲良くお勤めされることが最善です。Kさんのように、喪主（儀式・法要面での責任者）であり、施主（経済面での責任者）でもあるお兄さまとの関係に問題が生じたときも、沖縄の先人は、知恵（ジンブン）を駆使されてきたと、先輩方から教えていただきました。

向焼香という習慣

それが「向焼香（ムカイスーコー）」という方法です。「向」とは、本来、出席しなければならない儀式や法要に出席できないとき、その場所に向かって簡易的なお飾りやお供えをして、自宅などから合掌・礼拝し、仮に出席したとみなす慣習です。

この慣習を応用している一例を紹介します。沖縄の清明祭は、毎年、旧暦三月に行われますが、家族や親族に不幸があったとき、喪が明ける一周忌（四十九日・三回忌の場合もあります）が終わるまで、清明祭を行わない地域や家庭があります。

このとき、故人さまだけを納骨しているお墓の清明祭であれば、喪中のウマチー（お祭り）ですので、行わなくても問題ありませんが、故人さま以外が納骨されているお墓の場合、他のご先祖さまは喪中ではないので、清明祭を行いたいと思う方もいるでしょう。このとき、お墓に出向かず、自宅に簡易的なお飾りやお供えをして、門や玄関からお墓に向かって合掌・礼拝する慣習があります。このことを「向清明（ムカイウシーミー）」といい、行かなくても行ったことになるという考え方です。

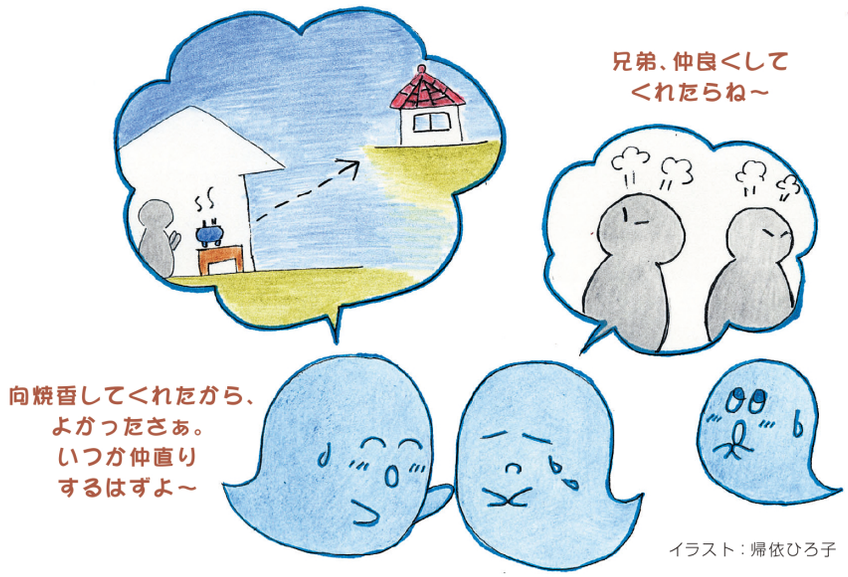
この習慣と同じように、Kさんも三十三回忌の当日に、自宅の門や玄関から、お父さまのトートーメーに向かって合掌・礼拝する「向焼香」を行うといいでしょう。作法は向清明と同じなので、参考にしてくださいね。

謙虚な気持ちを忘れずに

このとき気を付けたいのは、お兄さまが行う法要より、多少なりとも控えめにするという謙虚な気持ちを持つことです。お飾りやお供えを簡易的にすることには、そのような深い意味があります。

「ワッターヤー（我が家）はサンナンバラ（三男の家系）だから、ウチカビ（打紙）はサンマングワン（三万貫・ウチカビの一束を三枚にする慣習）で少なめにしておこうねー。チャクシバラ（長男の家系）のおじさんのところがグマングワン（五万貫・ウチカビの一束を五枚にする慣習）だから、そこより多くならないようにねー」。これは、私がお参りする法事の席で、実際に良く耳にする先輩方の会話です。

Kさんのお父さまへの想いを察すると、やはり兄弟円満であることが一番の供養になろうかと思います。終焼香ですので、お父さまへ「見守ってください」と供養した後、心の中で、お父さまの供養をお勤めされているお兄さまへの感謝の気持ちも伝えていただけると素晴らしいですね。お兄さまも、心のどこかでは、Kさんの出席を望んでおられるかも知れませんので。



イラスト：帰依ひろ子

帰依　龍照　1968年岡山県出身（満47歳）／学歴：岡山大学大学院博士課程単位取得・中央仏教学院研究科卒／専門分野：哲学（宗教哲学）／沖縄県内で年間多数の住宅起工式（地鎮祭）を担当する／最近、小学校から大学まで、いじめや不登校・進学・就職を中心とする講演会に多数お招きいただいています。住職（昔の和尚「おしょうさん」）を長男に継承し、前住職（ぜんじゅうしょく）となりました。

【質問をお寄せください】 年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q&A係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は22面をご覧ください。